

この人に

FOCUS

プロバスケットボールプレイヤー 杉脇大輔さん

海外で活躍する日本人バスケットボール選手というのは、他のスポーツに比べてまだまだ少ない。数年前にはNBA初の日本人選手として田臥勇太選手が話題を呼んだが、いまだ厳しい世界であることには違いない。今回はそんな険しい道に挑戦し続けているひとりで、今シーズンからアメリカのプロチーム、シアトル・ゼン・ガンの選手としてプレーしている杉脇大輔さんに話を聞いた。



杉脇大輔さん

アメリカのプロリーグを目指して

杉脇大輔さんは横浜市出身。中学時代は水泳部に所属していたという杉脇さんが、本格的にバスケットボールを始めたのは高校からで、その後大学時代はクラブチーム等に所属、2年間実業団でのプレーも経験した。



シアトル・ゼン・ガンのチームメイトと

カナダへは、大学卒業後にオカナガンに4カ月間の短期留学を経験した後、2002年に再び渡加。ナナイモのバンクーバーアイランド大学に留学し、卒業後から現在まで玉川学園ナナイモ校に勤務。

カナダ行きを決意した一番の理由は、バスケットであったという杉脇さん。「英語が上手になりたいという事もあったが、(バスケットで)自分が海外でどこまでやれるか試したかった」と話す。ナナイモに在学中は市内のアマチュアリーグに参加し、卒業後は毎年アメリカ・カナダ各地のプロチーム入団テストやトーナメントに参加していた。

昨年5月には国際バスケットボールリーグ(IBL)に加盟した初の日本人チーム「日本トルネード」のメンバーとしてプレーした。さらにマイナーリーグのアメリカン・バスケットボール・リーグ(ABA)の新生チーム、シアトル・ゼン・ガンに今シーズンから入団し、プロ選手としてアメリカ、カナダを往来する生活を送っている。

海外でプレーする厳しさと喜び

バスケットボールにおいて、日本人がアメリカなど海外でプレーするのは体格、力など体力面で大変というのは誰でも想像できる事であるが、それだけでなく杉脇さんは「基本的に最初は誰からもパスが来ない。こっちの人達は一般的に日本人などのアジア人がバスケットをできるとは思っていないので、まずは自分のプレーを見せて、実力を示さないと中に入れない」と語る。また、日本で生まれ育った杉脇さんは、初めの内は英語でも苦労したという。選手としての能力以外の面でも、日本人が海外でプレーするために超えなければならない壁は多い様だ。

一方で、杉脇さんのプレーや、日本人としての良さを認め、評価してくれる人はいると話す。杉脇さんが考える日本人の強みとは、走るバスケット、そしてディフェンスをしたり一見地味なことでもできる精神的な強さであるという。また「アメリカ、カナダでプレーして変わったことは？」という質問に対しても「むしろ変わってないと思う。プレースタイルも変わってないし、自分も走ったりディフェンスするのが大好きだけど、それを買ってくれる人が間違いなく居る」。そしてこちらで試合に出て「日本人が応援に来てくれること。また日本人に限らず、外国人としてアメリカ、カナダでプレーする自分を応援してくれる人が居ることはうれしい」と答えた。

更なる高みへ向かって

今現在、目標としてきたアメリカのプロというレベルでのバスケットができているという杉脇さん。今後もIBLなどにも挑戦していき、良い所があればどこへでも行きたいという。「高いレベルで努力していれば、また道は開けると思う。そして進んだらまた新しいことが見えてくると思う」と力強く語った。

(取材 前田一也)